

ナハ・ニア・シテルンク（再話）

言語技術は情報を受け入れ、自分で中で再構築し、表現することで身についてくる。この課題はそのプロセスを効果的に身につけることができる。

『この課題で身につくと思われる力』

- ・聞く力
- ・記憶する力
- ・記録する力
- ・構成力
- ・書く力
- ・象徴を理解する力
- ・集中力
- ・その他

『課題の流れ』

- (1) 10分程度の話を聞く。
- (2) 【課題A】その話を250字程度の文章にまとめる。
- (3) 【課題B】この話は何を象徴しているのかを150字程度でその根拠をもとに記す。

『フォーマット』

- (1) ノートの使い方はいつもの通り。

- (2) 【課題A】の書き出しひは「A」と記し、【課題B】の書き出しひは「B」記す。
- (3) 【課題A】には必ず次の要素が1表現以上入るようにし、その要素が一番初めに表現されている箇所の右側に「」の番号を記す。（2回目以降は番号を記さなくともよい。）

いつ どこで だれが どのように 何をした (5W1H)

(4) 【課題B】の書き方はだいたい次の書き方を参考にする。

B
この話に出てきた は の象徴である。なぜなら、 は話の中で になつたり、×××だつたりしたからだ。これは である に通じるところがある。よつて は の象徴である。

『注意点』

- 1 授業時間最後に提出する。（未完成でも課題途中までの評価を行つ。）
- 2 文字は黒ペンを使つ。
- 3 必ず見開きページを使う。文字はマス目に入れていく。縦書き原稿用紙ノートの書き方に従う。字数オーバーして3ページ目に行つてもいいが、新しい課題は必ず見開きページから開始すること。
- 4 文字語句チェック5つ以上で再提出。
- 5 課題未完成・課題不備の場合で評価が低いと感じた場合は書き足し、文字の修正のための再提出を1度だけ認める。